

雨のち晴れた。



五華内しびよ

カーテンを引き寄せ、窓（まど）を開けると、夜の暗闇（くらやみ）に右手をおそるおそるのぼします。見上げる壁（かべ）の時計は、午後8時を指していました。

「はあ……」

ハヤトは、空から雨つぶを探してみたのです。1日続いた雨は、さつき塾（じゅく）からもどるまで、止まらずにいたはずでした。

「行ってくるから」

「気を付けてね」

お母さんに声をかけると玄関（げんかん）を出て、目の前の歩道の、街灯が照らす場所までやって来ました。

「寒う。やっぱ上に着てくりや良かったよ」

10月が終わるころ、この町は日に日に冬のけはいがしてきます。

白い息を吐（は）きながら、ジャージ姿のハヤトは、いつもの体操を始めます。そして、体が温まったところに、腕（うで）の時計を確かめながら、歩道を走り出しました。

中学三年の今年、野球部の部活動を7月に引退して、それから月水金の週に3日、塾（じゅく）から帰って3キロのランニングを始めました。

しかしこのごろは、疲（つか）れていたり眠（ねむ）かったり「雨が降れば休めるのに」などと、つい思ってしまう。自分で決めた事だから、いつでも好きに休めるはずが、なぜだか、家族で決めた約束のように感じます。それはハヤトだけじゃなく、お母さんもお父さんも妹も、みんながそんなつもりでいるようでした。

「はっはっすー、はっはっすー」

最初の1キロ地点は、スーパーの有る角から国道をわたって少しのところ。りっぱな車庫と、大きな石の有る庭が目印でした。

「何だ？」

見えてきたスーパーの壁（かべ）は、赤い光が渦（うず）を巻いて、そこには人影（ひとかげ）も見えます。近づくと、光の正体はパトカーの屋根のライトで、起きたばかりの交通事故だとわかりました。

なぜだかひっくり返った車と、それをはさむようにパトカーが2台。ハヤトのわたる交差点が、割れたガラスでキラキラとかがやいて見えました。

警察官が、交通整理をしたりだれかに話を聞いたりしています。車道では、車が長い列を作り、見物人も見る見るうちに増えました。すると遠くで、救急車の鳴らすサイレンの音がしてきます。

「これじゃあ、いつまでもわたれないよ」

ハヤトは仕方なく、向こうに見える信号の横断歩道を目指すことに決めました。

「あそこまで、200メートルぐらい？ 往復したら400かよ！」

国道をわたると引き返し、集まる人に揉（も）まれながら、やっとりっぱな車庫と、大きな石の有る庭を通過しました。

ところが、このあと急に、ハヤトはコースを変えてしまいます。

「今日は遠回りをさせられて、タイムも参考にならないし、そろそろもどればちょうどいいはずだよ」

選んだ道は、急に暗い路地（ろじ）でした。おまけに舗装（ほそう）がつきはぎで、何度もつまずきそうになりました。

「なんだよ。この道！」

すると今度は右足が、「ベチャン」と水たまりを踏（ふ）んづけます。

「冷たっ！ 一生この道走らないからな」

そのあとも、ネコが目の前を飛び出してきたり、イヌの散歩とはちあわせしたり。

「ワンワンワン」

「わあー」

「あらちよっと！ ごめんなさい」

「はっはっすー、はっはっすー」

たまらずため息をつきそうになり、あわてて呼吸を整えました。

道を右や左に遠回りして、国道の、さっきわたった横断歩道へもどることが出来ました。信号を待つ間、足ぶみしながらなんとなく、まだいた人ばかりをながめていたのです。

「ハヤト君だよね。二組の」

「ああっ〈はやしばらユイカ〉……」

クラスが四組の、前からすごく気になる女子でした。部屋着（へやぎ）の上に綿入れ（わたいれ）を着て、髪（かみ）が少しぬれて見えました。ハヤトは、シャンプーの良い香（かお）りがしたような気がします。

「あの事故のせいよ。もう、がっかり」

おいしいパンを売る店の、閉店時間がせまり、あわてて車で向かおうとしたのに、道が渋滞（じゅうたい）していて間に合わなかったことや、それで仕方なく、コンビニへ歩いて何か探しに行くことが、よほどくやしかったのだろう。初めて口をきくハヤトをつかまえ、聞かせていたのです。

「トレーニング？ がんばってね」

「ああ。じゃあ」

信号が青に変わり、ハヤトは、うしろ髪（がみ）を引かれる思いで走り出しました。

「はやしばらの家って、今来た道にあるのかな。またここを走れば会えるかも……よっしゃあ！」

家の前までもどると、お父さんが外で待っていました。

「おそかったっしょ」

「はあはあ、スーパーの前で事故あってさ！ それで」

ハヤトはそう言うと、深くため息をつきました。しかしそれは、横断歩道で別れぎわ、のぞいた笑顔が忘れられずにいたからです。

「いやーまいった」

(終わり)

雨のち晴れた。

<http://p.booklog.jp/book/93169>

著者：しびよ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sibiyo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/93169>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/93169>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ